

## 朝の読書活動を成功させよう!

7月1日から朝学習を朝の読書活動に切り替えます。朝の読書活動がうまくいく場合といかない場合とでは、効果が全然違いますので、ここでその秘訣を紹介したいと思います。かれこれ20年ほど前、勤務していた学校が朝の読書活動を熱心に取り組んでいました。その当時、まだ県内では珍しい方で、のちに文部科学省からもその活動が評価され表彰された学校でもあります。もちろん、優秀な学校でなく、学力的にも生徒指導面でも課題のあった学校でした。この読書活動が一因となったかどうかはわかりませんが、生徒指導に係る事案はほぼゼロになるまで落ち着いています。朝の読書活動を行って、顕著にみられた生徒の姿としては、休み時間や自習の時間で少しの時間があると、何人もの生徒が自然に読書をする姿が見られました。子どもが読書を好きになること自体が、情緒の安定につながっていくと思います。

しかし、朝の読書活動を安定させてすることは結構大変なので、全教職員共通で一斉に取り組んでももらえればと思います。取り組む共通事項は3点です。

- ① 読書のための本がない子をなくす
- ② チャイムと同時に全員が読書を始める
- ③ 教員も一緒に読書をする

①は、読む本を持っていない生徒がいると読書自体が成立しません。中には国語の教科書を読書する生徒もいますが、それでは読書をしているという感じが出てきません。まずは、手元に本が用意できている環境を作りたいものです。本を忘れず持ってくるよう指導していただくとともに、先生方の家にあるいらなくなった本があれば、学級文庫においてくれると助かります。

②は、始まるチャイムとともに全員が読み始める体制を作ることです。読書する子にとって、落ち着かない環境での読書は身になりません。チャイムが鳴ると同時に、全員が読書を始めれば、その環境は保つことができるでしょう。取組の初めは、チャイムと同時に読書を始めよう指導していただければと思います。

③は、教室はもとより職員室でも読書の時間は教員も読書することです。ちょっとしたこの行為が、学校全体の取組として浸透するし、先生と生徒の間での読書に関わる会話にもつながってきます。

生徒の読書量が少ないのは本校の課題であることに違いありません。この取り組みが有効なものにつながるよう先生方の協力をお願いします。